

平成 30 年度 第 3 回学校運営協議会議事

日時：平成 31 年 2 月 16 日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、石崎亜矢子
【校長・事務局】 岡崎守夫、山脇和美、太田明美、富本佳照、本管克江、神前喬、
前田保彦、森登紀子

1. 開会の辞
2. 校長挨拶
3. 議事
 - (1) 本年度の各取組みについて（学校評価報告）
 - (2) 平成 31 年度学校経営計画について
 - (3) 質疑応答
 - (4) 平成 31 年度運営協議会の日程について
 - (5) その他
4. 閉会の辞

事務局からの「議事」に係る説明

- (1) 本年度の各取組みについて（学校評価報告）

<校長より>

1. 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築について

- (1) 「グローバル」に視点を置いた取組み

ア・パラグアイからの長期留学生 1 名を受け入れており、留学生が年末に全校集会で発表を行った。また、6 月に台湾からの研修旅行生、10 月にインドネシアからの研修旅行生を第 1 学年で受け入れ、12 月にフィリピンからの研修旅行生を第 2 学年で受け入れた。Brothers&Sisters プログラムにおいては、第 1 学年の生徒が小グループに分かれて、主にアジアからの大阪大学留学生 60 名と交流した。(○)

・実施には多くの困難があったにもかかわらず、宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度は 97%であった。(◎)

イ・SET も含め英語科教員が日々互いに授業見学を行った。英語イマージョンプログラムへの参加者は、1 年生対象の I（12 月実施）80 名、2 年生対象の II（1 月実施）20 名であり、満足度は I、II の第 1 回それぞれ 98%、100%であった。(◎)

- (2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組みについて

ア・24 名の卒業生等を招いて学問発見講座や卒業生講座を実施し、そのうちキャリア教育に資する講座を 10 講座設けた。また、学問発見講座や卒業生講座以外に社会で活躍す

る卒業生の講演会を1回実施した。(◎)

・卒業生の研究室訪問を10か所実施し、84名の生徒が参加した。(◎)

・関東方面の大学見学会に9名の生徒が参加した。またその際、東京在住の卒業生30名との交流の機会も設けた。(○)

・各取組みに対する生徒の満足度は、学問発見講座94%、卒業生講座97%、卒業生の研究室訪問99%、関東方面への大学見学会100%(◎)

イ・京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター(CAPE)、大阪大学教授等のご理解を得て、課題研究や課題研究につながる授業に、1月までにのべ26回協力していただいている。(◎)

2. 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築について

3. 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築について

*この部分の取組みは、現在実施中または取組み予定のものがほとんどである。

(1) 「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成

ア・1月までに11回実施し、のべ878名の生徒が参加した。外部講師による講演の満足度は、3月末に集計予定。

イ・1月までに9回実施し、のべ351名の生徒が参加した。そのうち1回行った外部講師によるプログラムの満足度は3月末に集計予定。

ウ・1月までに11回実施し、のべ784名の生徒が参加した。理学療法士の協力人数は3月末に集計予定。なお、12月までのスポーツ振興センターの手続き件数は62件である。(昨年度同期間の手続き件数は96件。)

(2) 「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成

ア・12月までの遅刻数は、一人当たり1.6回であり、昨年度とほぼ同じ数値である。生徒の自覚をさらに高める取組みを継続して実施したい。

イ・一人当たりの平均読書量は、3月末に集計予定。

4. 教員の授業力向上のためのシステムの構築について

(1) 授業力向上のためのシステムの充実

ア・全教科で、年1回以上研究授業を実施した。また、教科会議においては、教科指導の内容についての意見交換、授業アンケートの結果の分析等、授業力向上のための議論ができていく。(○)

イ・年間の互見授業は、教員一人当たり平均2.2回である。教員の授業力のさらなる向上のため、引き続き実施したい。(○)

ウ・全教員の授業を観察し、各授業終了時に生徒へのアンケートを実施し、年2回実施している授業アンケートとともに教員が生徒の状況を把握し、授業改善策を考える材料とした。生徒からの授業信頼度は88%であった。(○)

各取組みについての事務局からの説明

<GLHS指定校としての取組み>

① 茨木B&Sプログラム（大阪大学留学生等との交流）

今年度は12月15日（土）に大阪大学から留学生約60名を招聘し、第1学年の生徒と交流した。来年度の宿泊野外行事の行き先がカンボジアであるため、カンボジア出身の留学生も招聘するメンバーの中に入れていただき、ディスカッションやクイズ等を通じて理解を深めることができた。

② TOEFL iBT Complete Practice Test

現3年生は、今年度設定した3回の受験日の中で、1回目44名、2回目36名、3回目5名が受験し、3年間を通じて80名以上という目標は達成した。1、2年生の希望者と合わせて、計191名が受験した。

③ 73期 英語イメージプログラムⅠ

今年度は12月25日（火）・26日（水）にディスカッションとプレゼンテーションを授業形式の中心とした、50分×6コマ×2日間の英語集中プログラムを実施した。

④ 72期 英語イメージプログラムⅡ

今年度は平成31年1月6日（日）・7日（月）にディベート及びディスカッションの演習を中心とした、50分×6コマ×2日間の英語集中プログラムを実施した。

⑤ 東京スタディーツアー

8月6日（月）・7日（火）に実施した。今年度は東京大学と東京医科歯科大学の研究室を訪問し、講義を受け、見学を行った。参加者は9名と、例年より少なめであったが、この取組みに参加したことで、これからの高校生活や進路選択に向けて大きな影響を受けたことがうかがえる。

東京スタディーツアー以外にも多くの高大連携事業を行っており、生徒が希望に応じて参加している。

⑧ リーダー育成プログラムⅠ

クラブ代表者を育成することにより、部活動の活性化と部活動を自主的に運営する意識の向上をはかるプログラムである。今年度のメンバーから、「現在のクラブ代表者会議は、教員からの連絡を伝える会のようになっているため、自分たち（クラブ代表者）で運営する本来の姿になるよう改革していきたい。」という申し出があった。

⑨ リーダー育成プログラムⅡ

HR運営委員を育成することにより、HR環境の向上をはかるプログラムである。今年度

の文化祭は例年に比べて盛況であった。生徒会執行部を中心にした新しい企画の成功が大きく影響している。

⑩ リーダー育成プログラムⅢ

理学療法士を多数招聘し、各部活動が、傷害治療・傷害予防はもちろん、個々人のパフォーマンス向上等のための支援を受けるプログラムである。

⑪ 豊かな感性を育むプログラム

今年度は、音楽会を平成 31 年 3 月 7 日（木）立命館大学フューチャープラザ グランドホールにて開催する予定。美術科・書道科展は、平成 31 年 2 月 16 日（土）・20 日（火）本校多目的ホールにて実施。

<課題研究について>

昨年度より、文理学科だけでなく普通科も合わせた 2 年生全員で課題研究を行っている。課題研究を充実させるための取組みとして、夏休み前からの開講、課題研究アドバイザーの招聘（月曜日、水曜日ともに、毎回研究者 1 名を招聘）、各テーマの必要に応じた外部との連携等を実施してきた。研究発表の形式は、オーラル発表かポスターセッションかを各研究チームに希望を取り、実施した。ポスターセッションについては、今年度、プラスチック段ボールで作った三角柱にポスターを貼る等の工夫を行い、発表をより活性化することができた。

また、GLHS 合同発表会においては、本校の代表が発表した「《最後の晚餐》とダ・ヴィンチの思惑～謎の手に隠されたもの～」が、大阪府教育委員会賞を受賞した。

<宿泊野外行事報告>

今年度の行き先はフィリピン共和国のセブ島であった。行く前は、セブに対してリゾート地というイメージが強かったが、実際に行ってみて、発展途上国の現状に触れ、イメージが大きく変わった。現地に行くということの大事さとともに、単なる「旅行」ではなく、スタディーツアーとして生徒たちが得たものの大きさを実感した。

<「授業力向上」のための取組み>

学習指導要領の改訂に向けて、平成 31 年度からはカリキュラムについての検討を本格的にスタートさせることになるが、今年度はその前段階として、研究会を実施した。

また、前期に理科では、1 年生にグループでテーマを決めて学習し、その成果をポスターにまとめさせた。これは、2 年生の課題研究にもつながるものであると考えている。

(2) 平成 31 年度学校経営計画について

1 めざす学校像、2 中期目標の 1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築、2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築 については変更なし。

3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築 について、これまで「一

人当たりの遅刻件数」を指標としていたが、前回の運営協議会でいただいたご意見を元に検討し、「地域と連携した活動等への生徒一人当たりの参加回数」を指標とすることにした。

また、「高い志」「自主自律の精神」と並ぶものとして、本校ではこれまでさまざまな場面で「二兎を追うたくましさ」という言葉を使用してきたが、現在その「二兎を追うたくましさ」に代わるものを、考慮中である。

(3) 質疑応答

<課題研究について>

委員：先ほどの説明で、課題研究がまた大きく進歩したと感じた。大学で取り組んでいることと同じではないかと思う。大変だと思うが、先生方はやりがいがあると感じているのか。

事務局：生徒への指導を充実させるために、事前に、各担当者向けの研修会を行った。そこで、大学の研究者からのアドバイスを受け、生徒の指導に当たった。既に築かれたもの（先行研究）から答えを探し出してくることに留まるのではなく、今、目の前にあるテーマにどのように取り組ませるのが難しいところである。

委員：新しい学習指導要領にもつながるものである。先生方もぜひ楽しんでほしい。

委員：(先ほどの説明中にあった)研究会も、効果的に新しい学習指導要領につながっていると思われる。課題研究の充実のための取り組みを、次年度の学校経営計画の中期的目標に入れることを検討してみてもどうか。

委員：ポスターセッションは、楽しい。学会等でも来場者への説明という面で効果的である。情報交換の場が増えるし、気軽に議論ができ、考えが深まるというメリットがある。

委員：ヨーロッパでは、実力は即答力だと考えられている。イタリアでは、高校数学のテストは口頭試問であるようだ。ポスターセッションは、即答力がつき、対話を基にした深い学びにつながる。また、コミュニケーション能力が磨かれる。

委員：課題研究で、自分たちの既存の知識をテーマの中に納める過程で、宿題等も含めてどれくらい必要なのか。

事務局：まず、各担当者が提示した講座一覧を見て生徒が希望を出し、各生徒が選択する講座を調整している。生徒にとっては、講座のテーマに沿った、自分たちが研究したいテーマを見つけるのが最初の大きなハードルである。そこから、担当者に紹介してもらった書物を読んだり、資料を探したりと、週一回の授業に向けて生徒それぞれが準備するのが基本だが、なかなかうまくいかないこともある。そのようなとき、生徒にどんなアドバイスをするのが大切である。やはり、担当者向けの最初の研修は重要だと考えている。

委員：生徒たちにとって、課題研究で学び方を知ったということが大切である。

事務局：自分たちのテーマに対して、出来合いの結果を持ってくるのではなく、どのように「研究」へと持っていくのか、適宜、進捗状況を報告させることでアドバイスの機会を持つようにしている。

委員：見えないものを見る、のように答えの出ない質問を投げかけてやると生徒は喜ぶのではないか。

委員：学生のインターンシップ等でも、さまざまな企画を出すことが求められる。茨高での経験がそのような場でも生かされるように感じる。

<「二兎を追うたくましさ」について>

事務局：本校の教育方針の三本柱は、「高い志」「二兎を追うたくましさ」「自主自律の精神」であるが、「二兎を追うたくましさ」は具体的な行動指針を示しており、他の二つと言葉の層が異なると考えている。そこで、「二兎を追うたくましさ」に代わる言葉を考えてみたい。

委員：他に良い表現があれば、変更してもよいのではないか。

<中期的目標3の指標について>

委員：地域と連携した活動とはどのようなものか。

事務局：地域清掃などのボランティア活動に加えて、小中学生対象のスポーツ教室の開催や市主催の行事などへの積極的な参加等、幅広くとらえている。

<リーダー育成プログラムⅠについて>

委員：クラブ代表者会議のあり方について、生徒から意見が出てきた、と説明があったが、その声が、生徒からでてきたのはよいことだ。何か仕掛けをしたのか。

事務局：特に何か仕掛けをした、というのではない。今までは、生徒からの要求が出たとき、何度かその要求を却下しても、その要求が通るまで何度でもチャレンジしてきたものだった。ところが、最近は、一度却下されると、それをそのまま受け入れてしまう傾向にあり、危機感を持っているところだ。

委員：よい意味で先生が壁になっていた、ということだ。

<宿泊野外行事について>

委員：今回のセブもそうだが、単なる観光旅行ではない活動を、ということと一方で何か事故が起きると大変だ、という絶妙なバランスで実施されているように思うが、先生方はどんなことに留意しながら実施しているのか。

事務局：行き先の候補地の選定の際にも、現地での行動内容の検討の際にも、安全面に最も留意している。今回の宿泊野外行事では、行き先が決まった段階で、フィリピンについて研究しておられる大学の先生に指導助言を依頼し、継続的に支援していただいた。また、外務省大阪分室のご助力でセブの領事館と連絡を取り、教員の下見の際にも様々な情報をいただいた。旅行社も本校の宿泊野外行事の実施方針をよく理解している。

委員：セブは多様さがある所なので、高校生のうちに、見ておくことが大切である。

<平成 31 年度の学校運営に関する基本的な方針について>

平成 31 年度学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」について承認。

(4) 平成 31 年度学校運営協議会の日程について

第 1 回 2019 年 6 月 8 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00

第 3 回 2020 年 2 月 15 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00

* 第 2 回については、今後調整予定

(5) その他

- ・ 毎日新聞掲載「わたしの母校」 記事の紹介
- ・ 第 13 回食育情報交換会 @茨木高校 の紹介
- ・ 野球親善試合の紹介